

令和5年度第1回 名張市地域公共交通連携協議会 議事概要

日時 令和5年6月23日(金)

午後1時00分より

場所 名張市武道交流館「いきいき」多目的ホール

出席者：(敬称略)

(1) 委員

古谷 久人 (薦原コミュニティバス運営委員会 会長)
杉本 一徳 (ほっとバス錦運営協議会 会長)
内橋 歳夫 (緑が丘コミュニティバス運営協議会 会長)
田畑 博 (美旗地域コミュニティバス運営審議会 会長)
中井 道昭 (国津コミュニティバスあららぎ号運行協議会 会長)
平岡 祐一 (三重交通株式会社伊賀営業所 所長)
橋本 智幸 (株式会社メイハン 取締役部長)
伊集院 時仁 (名張市都市整備部 部長)

(2) オブザーバー

中平 恭之 (近畿大学工業高等専門学校 教授)
内藤 莉菜 (中部運輸局三重運輸支局運輸企画専門官)
福田 富彦 (薦原コミュニティバス運営委員会)
中谷 恒雄 (緑が丘コミュニティバス運営協議会)
秋永 正人 (国津地区コミュニティバスあららぎ号運行協議会)

(3) 事務局

都市整備部都市計画室3名

1. 開会

2. 議事

(1) 役員を選任について

会長・副会長の選任を行い会長を古谷委員、副会長を橋本委員及び伊集院委員に決定した。

●質問、意見なし

(2) 令和4年度コミュニティバス事業評価について

(令和4年度事業評価について事務局及び各コミュニティバス代表より説明)

(ナッキー号)

事務局 コロナ禍以前のような利用者数には戻っていないが、昨年度に比べ微増となり、人流の戻りが見受けられる。また、行動規制の緩和に伴い、各種イベントも実施することができ、令和4年度から新規事業であるバスの絵・川柳については、利用促進に寄与することができた。今後は、病院や商業施設への乗り入れを行う等、さらなる利便性の向上に努める。

(あららぎ号)

事務局 利用者数は減少傾向にあるが、運賃免除者数（無料含む）は昨年度より増加している。お買い物便や予約便の一部は利用者が昨年度より微増しており、運行変更の効果が見受けられる。今後の取組とし、デマンドによる運行など実態に即した利用しやすく効率的な運行となるよう引き続き見直しに努める。

(ほっとバス錦)

委員 地域へのチラシによる啓発やハイキングコースを活用したグループ単位での観光を提案するなど利用促進に努めた。コロナ禍の規制緩和により、利用者の増傾向が見られたものの、運行の主目的である日常生活でバスを必要とする住民の利用が増えたかどうかは確証を得られていないため、できるだけ早い段階で、今後のニーズの動向について明確にしなければならない。

(コモコモ号)

オブザーバー 市民センターだよりで利用を呼びかけたり、小学生に対し、バス運行の授業と乗車体験を実施した。運営協賛金として昨年度より3社からご協賛いただいた。利用者総数は若干減少したが、有償利用者数は増加している。月別推移をみると、10月以降の下期に増加しており、新型コロナウイルスの収まりも影響していると思われる。いずれにしても唯一の公共交通機関であるので、継続運行出来るように努める。

(みどり号)

委員 利用者数は減少傾向だが、運賃免除の利用者は一定数いる。利用促進のため、自治会の広報誌にみどり号通信のコーナーを設けPRに努めた。ぎゅーとらやコメリができ便利になったが、徒歩圏内のためバスの利用者数の増加にはつなげられていない。
市道赤阪夏秋線の暫定供用が始まり、マックスバリュ等への路線変更も検討しているが課題がある。

(はたっこ号)

委員 令和4年度も利用状況はあまりよくない状況だが、昨年度に比べ利用者が増加し回復傾向にある。特に、令和3年度行ったオークワ西原店への乗り入れにより「オークワ西原店前」の利用者は増えている。今後の課題として、往復利用できないとの声があるため、利便性を高めるために利用頻度の低い便を見直すなどし往復利用ができるよう検討したい。

会長 それぞれのコミュニティバスについてのご意見やご質問をいただきたいと思います。

<各コミュニティバスに対する意見・質問等の要約>

(ナッキー号)

会長 最近では公共交通の利益の出る路線に限られているが、生活をするうえでは必要な路線であり、利用者だけでは維持できないことより、公共交通を守るためには、観光やイベントでの利用

も考える必要がある。ナッキー号は色々なイベントをされているが、参考になるものはあるか。

事務局 バスの絵・川柳は好評であった。今年は優秀作品の選定を予定している。作品はバスの車内に展示しギャラリーバスとして利用する。作品を鑑賞するために保護者の方と一緒にバスに乗ることで、利用促進につなげたり、バスの良さを感じてもらえるきっかけづくりになる。低コストで実施することができ費用対効果が望める。

(あららぎ号)

委員 お買い物便と予約運行の仕組みが知りたい。

委員 事前に予約を行い、予約があれば時刻表通りに停留所に行く。長瀬地区はお買い物便のみ利用できる。予約がなければ運行をやめ、経費削減のため経営の工夫を行っている。デマンドを望む声もあるので、自宅の近くまでいけるようなデマンド化に向け検討している。

(ほっとバス錦)

会長 ハイキングコースを整備し観光目的の取組みをしているが、今後観光協会や商工会議所や近畿日本鉄道とのタイアップ等は考えているのか。

委員 当初は約40人乗れるバスであったが、小型化し現在は14名しか乗れないため、大々的なイベントは行えていない。事前に予約を受け、可能であれば大きな車両で対応するなど今後検討したい。

(コモコモ号)

会長 近年利用者が低迷していることを受け、今年度は、近畿大学工業高等専門学校と共同研究を行い、住民のニーズを把握するための調査や運行形態の見直しなどを予定しているが、どのような方法を考えているか。

委員 現状の課題として例えば、路線が複雑で長いことが挙げられるので、運行計画を変更するという方法も考えられる。だが、安易にデマンドにするのは費用面からもよくないので、検討が必要である。

委員 住民の方へアンケートをとるとニーズは高いが、利用実績が伴わない場合がある。内容や実施方法についてどのように工夫しているか。

委員 実態と合わないことも踏まえて、アンケートの質問内容等も検討しなければならない。

事務局 ナッキー号の乗り込み調査の際、少し踏み込み運賃の値上げの質問を行った。漠然とした質問から少し踏み込んだ質問を行うことで、答えにも信ぴょう性が出てくるのではないか。

(みどり号)

会長 路線の変更を考えているが、路線を延長することで不便さが出るのではないか。

委員 乗り入れを検討しているマックスバリュ名張店には、ATMや喫茶店、本屋もあり利用者から需要がある。ただし、市道赤坂夏秋線上の近鉄高架下の通行がバスでは困難であるため、車両の小型化も検討が必要である。

(はたっこ号)

会 長 美旗古墳群や初瀬街道などの観光資源があるが、それを活かした取り組みは考えているか。

委 員 オークワへ乗り入れてから買い物弱者の方の利用も増えているため、観光利用は今は考えていない。買い物を重視すると、待ち時間や待合場所に課題がある。今後は利便性向上に努めたい。

会 長 コミュニティバスの事業評価及び利用状況については以上で終了したいと思います。

(3) 錦生コミュニティバス「ほっとバス錦」の土日運行について

(資料に基づき、事務局より説明)

●質問、意見なし

(4) 市街地循環型コミュニティバス「ナッキー号」の商業施設等乗り入れについて

(資料に基づき、事務局より説明)

<質疑・応答>

委 員 廃止する「蔵持町原出」バス停の利用者は何人くらいか。

事務局 5月にナッキー号の乗り込み調査を行ったが、利用者が多い人気の停留所である。利用者の大半がマックスバリュ名張店を利用すると伺っている。

委 員 駐車場の出入り口から10メートル以内にバス停を設置することはできないので、バス停位置を決める際は注意すること。

事務局 はい。

委 員 各コミュニティバスとの乗り継ぎに影響が出てくると思うので、検討すること。

事務局 はい。

(5) 国津コミュニティバス「あららぎ号」寺田病院乗入れについて

(資料に基づき、事務局より説明)

●質問、意見なし

会 長 以上で、令和5年度第1回名張市地域公共交通連携協議会を終了いたします。